

クルーズトレイン「ななつ星 in 九州」6周年企画



“ななつ星”の思い出エピソード 結果発表！



「ななつ星」車内に特別ご招待！受賞者が決定しました！！

クルーズトレイン「ななつ星 in 九州」の運行開始6周年（2019年10月15日）を記念し、募集しておりました「ななつ星の思い出エピソード」の審査結果をお知らせいたします。募集内容は、2013年の運行開始から6年間の『ななつ星』との「思い出エピソード」とその写真で、大賞の方（3組）には、今年迎える「ななつ星」の「7」周年特別運行（10月13日運行予定）にて「ななつ星」への体験乗車、優秀賞の方（4組）には、ななつ星オリジナルグッズをプレゼントいたします。応募総数は168件でした。たくさんの想いが詰まったエピソードをご応募いただきまして、本当にありがとうございました。



JR九州会長唐池恒二・JR九州社長青柳俊彦・JR九州クルーズトレイン本部長福永嘉之に加え、ゲスト審査員として、ななつ星のデザイナー水戸岡鋭治様、直木賞選考もご担当されていた（株）文藝春秋執行役員羽鳥様にもお集まりいただき、エピソード内容や写真のユニークさの他、構成や文学的観点からも審査いただきました。

1 審査結果発表（作品全文は別紙参照）



はまだ
濱田 サラ さま 30歳 （米国ニューヨーク州在住）

タイトル 「ななつ星が繋いだ日米の架け橋」

英語教師として働く傍ら、日本人との国際交流につとめる濱田さまは、最初の任地である九州で「ななつ星」に出会われ、その魅力に取りつかれたというエピソードでした。「ななつ星」のクルーと帽子を交換した写真が添えられており、この写真からも彼女の国際交流のあり方がよく表れていると思います。<審査員代表コメント：水戸岡鋭治氏>



なかしま よしのり
中島 義則 さま 65歳 （福岡県那珂川市在住）

タイトル 「ななつ星との思い出」

ななつ星が台風で運行中止になったのは1度ありました。その時のお客さまからの投稿でしたが、エピソードには、念願の豪華クルージングを堪能されたと書かれています。忘れられない旅をしていただいたことが、文章と素敵なお写真にあふれており、見ているこちらも嬉しくなりました。<審査員代表コメント：青柳俊彦>





うらうしばる かなこ
浦牛原 佳奈子さま 44歳（鹿児島県伊佐市在住）

タイトル 「ご褒美ななつ星」

3歳、1歳、やんちゃな二人の男の子の夏休みは、母親には重労働だったはず。夏休み最後の日に人吉駅で初めて「ななつ星」をみて・・・その艶々に輝く豪華な車体は、お母さんも虜にした。いいものを見せてもらったなあ、もしかして子育てを頑張ったご褒美かなあ、そう感じたという感想から「苦労」をねぎらう「ご褒美」と考えた、その母の心情に感じ入りました。<審査員代表コメント：羽鳥好之>



上記3組の皆さまには10月13日の「ななつ星 in九州」特別運行（一部区間）にご招待いたします。

★ ★ ★ ★ ★ **優秀賞** ★ ★ ★ ★ ★



すえつぐ ちづこ
末次 千津子さま（山春保育所さま） 57歳（福岡県うきは市在住）

タイトル 「旅立ちの春」

「ななつ星」が開業して7年目、沿線の人たちがいつも手を振り暖かく迎えてくれることが、今の「ななつ星」の実績につながっていると思っています。保育園の子供たちの笑顔は、お客さまからも、クルーたちにとっても、格別なもの。本当にありがたく、また私たちの励みにもなっています。とても嬉しいエピソードです。感謝につきます。これからも引き続き応援をお願いします。

<審査員代表コメント：青柳俊彦>



はるな けいこ やまの よしこ とのむら ふみこ
春名 恵子さま 61歳、**山野 美子**さま 60歳、**殿村 典子**さま 60歳
 グループ名「85歳まで」（兵庫県西宮市在住）

タイトル 「光る列車」

「ななつ星」をひと目見ようと九州に旅した女性3人。念願の車両を写真に収めようとするが、なかなかうまくゆかない。発車時間が過ぎても動き出さないの、自分たちの撮影時間を延ばしてくれているのかと思いきや、時間に遅れたお客さまを待っていたのだった。そのエピソードを3人は「プラス面」に捉えている、その発想がユニーク。ピカピカな車体を写した写真もよかった。

<審査員代表コメント：羽鳥好之>



木星賞

きとう りょうへい
佐藤 了平 さま 38歳（大分県大分市在住）

タイトル「ななつ星がくれた出逢い」

大分駅で出会う「ななつ星」をいつもお見送りにきていただいているエピソードを投稿いただきました。クルーたちの「ななつ星」への敬礼姿、車両に乗り込む際の柔らかな笑顔に、ひきつけられると書かれています。クルーのキリッとした態度と柔らかな笑顔、それは安全な運行への厳しい姿勢とホスピタリティの象徴だと私は考えているのですが、それを外部の人の視線からとらえてくださっている点が嬉しく感じました。

<審査員代表コメント：福永嘉之>



ブルー
ムーン
賞

よしの ひろこ
吉野 博子 さま 49歳（東京都文京区在住）

タイトル「ななつ星と或る列車とクリスマス」

「ななつ星」と「或る列車」、ふたつの優美な車両が大分県の豊後森駅で肩を並べることがあります。そのゴージャスな瞬間を狙おう、しかも一方の車窓から「ななつ星」をファインダーに収めようなんて考えるのは、大の鉄道ファンですね。大変に野心的、かつ、とても面白い構図の写真が、印象的でした。

<審査員代表コメント：唐池恒二>



上記4組の皆さまには「ななつ星 in 九州」オリジナルグッズをプレゼントいたします。

※受賞者の皆さまには、JR九州クルーズトレイン本部より個別にご連絡差し上げております。

※その他作品には、ホームページ等にて掲示予定です。その他詳細は決まり次第お知らせいたします。

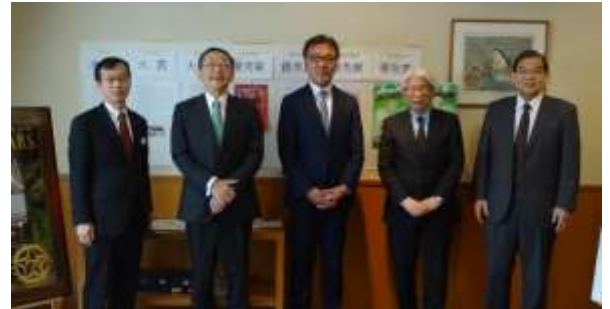
※詳細は「ななつ星 in 九州」ホームページ6周年ページをご確認ください。

(<https://www.cruisetrain-sevenstars.jp/6anniversary/>)

3 審査の様子

審査員として、ななつ星デザイナー水戸岡鋭治氏・JR九州会長唐池恒二・JR九州社長青柳俊彦・JR九州クルーズトレイン本部長福永嘉之・(株)文藝春秋執行役員羽鳥好之氏にお集まりいただきました。

「意見飛び交う審査では、なかなか選びきれず、審査員の皆さまは頭を抱える場面も・・・」



審査員より

いずれも素晴らしい作品ばかりで、審査も難航しました。表現力・写真力・感動力などをポイントに、総合的な視点で審査させていただきました。皆さまご応募本当にありがとうございました。

4 表彰式

- ・日時：2020年10月13日（火）午前中（7周年特別運行発車前）
 - ・場所：博多駅3F ラウンジ金星
 - ・大賞受賞者3組は、表彰式後そのまま「ななつ星in九州」にご乗車いただきます。（博多—門司港間）
 - ・優秀賞受賞者4組は金星でグッズをお渡しいたします。
- ※詳細については、後日ホームページ等にてご案内いたします。

5 その他

★7周年特別運行について（予定）

- ・日程：2020年10月13日（火）～16日（金）
- ・九州の地域の皆さまに日頃の感謝をお伝えさせていただきたく、通常コースをアレンジした特別ルートを予定しています。詳細は決まり次第、別途お知らせいたします。お楽しみに！

お知らせ

17期（2020年10月～2021年3月出発分）のご旅行お申込みを開始いたします。

【お申込み期間】4月1日（水）～30日（木）

※詳しくは、3月12日のニュースリリース、または「ななつ星 in 九州」ホームページをご確認ください。

ななつ星 in 九州クルーより

- ・今までにご乗車いただいたお客さま、沿線から応援してくださる皆さま、すべての皆さまに感謝です。
- ・多くの笑顔の写真をいただきました。
- ・おひとりおひとりとの「ななつ星」の思い出で心が温かくなりました。ありがとうございました。
- ・これからも皆さまと一緒に素敵な旅をつくっていきます。



<報道機関からのお問い合わせ>

九州旅客鉄道株式会社 広報部 TEL：092-474-2541

【大賞】 タイトル「ななつ星が繋いだ日米の架け橋」

別紙

はまだ
濱田 サラ さま （米国ニューヨーク州在住）

2013年ななつ星電車が初めて走る年に、私はアメリカから英語教師として九州へ引越しました。
ソイフルトインをどうしても見たがたので、佐賀県を皮切りに電車を見るために九州の全ての県を訪れました。博多駅でのななつ星展示会でバッジを買ったり、畑に囲まれた田舎の駅で電車を待ったり、毎回運転手さんとの会話や触れ合いを楽しんだのを鮮明に覚えています。
この写真は、運転手さんとの会話の中で、運転手さんが私の帽子が好きだともってくれたので、彼と私の帽子と交換して写真を撮ったものです。

英語教師としての私のミッションは、日本在住時に可能な限り国際交流を通して、日本と世界を繋げることでした。この運転手さんとの交流は、まさに国際交流の一環だと思いつつながら、これからななつ星の上で様々な外国人と日本人が繋がることを心より願っております。



【大賞】 タイトル「ななつ星との思い出」

なかしま よしのり
中島 義則 さま （福岡県那珂川市在住）

【 ななつ星との思い出 】

旅の始まりは、久しぶりに送られて来た女房からのメールでした。
「やってしも一た 写真を見て！」
えっ、まさか 趣味のロードバイクで事故では？ 頭の中は くるくる巻きに
なったギブスの包帯を想像して不安でいっぱい。そして次のメールには
「列車を楽しんできて」
それと “CRUISE TRAIN SEVEN STARS IN KYUSHU 旅のご案内の冊子” が写し
出されていました。『やってしも一た』の意味がやっと分かりました。
女房から5年目で出迎したとの事！ この突風の知らせに
夢が現実になった嬉しさで驚きで我が家は火曜日の一日に、
しかし、問題が二つありました。
それは愛犬チャコ15歳の体調が良くない事
もう一つは後手を挙げてせえて良いのか 戸惑っている事でした。
動物病院の先生には『大丈夫とは言えませんが入院の形です』と
息子からは『村角のチャンスにななつ星に乗って楽しんでくれる事が嬉しい』
胸のつかえがスーと抜くなり 2018年7月～旅の準備が始まりました。
出発までは3か月も先の事ですが 心は弾み足持ちはもう列車の中。
早速 旅先の下調べや行程表に何度も何度も目を通して 季節に合った衣服を

揃えるのにも多くの時間を費やしました。その間の夫婦の会話はいつもと違
って趣向向きで これまでの旅行の準備とは違い 特別なものがありました。
ところが 旅を目前にして 台風が九州を直撃する？ という天気予報が
テレビで流され……種々予感がありました。
残念ながら 出発2日前の10月2日台風の為に中止との連絡があり
頭の中は真っ白に しばらくは放心状態でした。
旅行のスーツケースは 既に急流先の「福岡びき」に着いているのに！
しかし、その日の内にキャンセル待ちで申し込んでいた分で
12月に乗車出来るとの事。
何はともあれ 胸を後で下ろし再び準備（秋から冬支度）に嬉しい悲鳴となり
ました。
2018年12月11日 やっと「ななつ星豪華列車の旅」出発の日が。
食料車を通ると 其処は全星。光り輝いて見えるホールには円形される
方々の笑顔と歸らいの星が とても神々しく見え『夢では？無いんだ！』と
自問自答。そして、やっとななつ星の失物預けにお会いすることが出来
ました。この半年間お電話で旅の内容説明や失物預けなど懇切丁寧に
対応して下さい不意に驚く事ができ本当にありがとうございました。
ウエルカムセレモニーが始まると 興奮は最高潮！ 身体が空に浮いている様
11時21分盛大なお見送りの中 列車は博多駅からゆっくり出発。

ななつ星の列車の旅が始まりました。列車は予感を遠かに越え 趣向を凝ら
した調度品の数々が『素晴らしい！』この魅力に溢れたななつ星での4日
間が 轟々お楽しみ…… やはり想像以上の事となりました！
列車はゆっくり走るお絵で 窓から見える景色を共に見て互いに
あれやこれやと 話に華が咲き 朝やらの時間が過ぎました。
時に、ホームでは手作りの旗を！ 駅では横断幕を掲げて！ 福祉施設の外
では気温が低いのに聞わず車椅子に乗り列車の通過を待ち手を振って！
歓迎して頂いた方々には、只今 感謝の気持ちでいっぱいになりました。
食事は「ブルームーン、水星」に移動して 暖色の柔らかな照明の中 手間
が込められたお料理を頂きました。見た目でも楽しませて下さりお味も最高
またソムリエの方がお薦め下さったアルコールと一緒に 合わせて頂き
至福の時間でした。毎朝のお食事を写真に収め記念と照らし合わせながら
食べて頂き、どのお料理も大変美味しく大満足でした。時々、食べるこ
とに夢中になりすぎて旅の事を忘れる始末。
そして、一番の思い出は 阿蘇神社での事。熊本地震による復旧途中の様に
無事の参拝を終って帰りますと 冷たい風が 次第に強くなり 寒さが苦手な
私はバスに乗る事に プルーの原さんが同行して下さいる人は
『寒い寒い』と叫び 子供の様に 大泣きをしながら参道を走りました。
とっても楽しいひと時となりました。

夢のような 列車の旅も4日目最後のフェアウェルイベントとなりました。
「ブルームーン」に全員集合です。スクリーンに映し出されるスナップ写真を
ワンチームになって楽しみました。
もうすぐ 列車は博多駅に到着し 旅の終わりが！
車窓から眺めている街並みは薄暗くなり始め まるで私達の心の様
「ななつ星の列車に乗って良かったね 楽しかったね みんなに感謝だね！」
とボツリボツリ 十分な満足感と一抹の寂しさが……
豊かな自然を次山眺められた事 歴史ある旅先で新しく知り得た事
そして 色々な場面で出逢えた新たな事等が大切な宝物となりました。
ななつ星の旅から早くも一年、今でも 写真を見ては涙で涙が溢れます。
最後になりますが、スタッフ皆さま方の思いやりに溢れたおもてなしのお陰
様で とても素晴らしい旅となりました。誠にありがとうございました。
送神です。
旅が終わる皆さまにお礼のご挨拶をしている中、4日間掛けていた愛犬の状
態が良くなり新幹線の時間を調べると一本前に間に合う事を知り、俄ただし
く帰念してしまいました。
お騒がせして、本当に申し訳ありませんでした。



【大賞】 タイトル「ご褒美ななつ星」

うらうしばる かなこ
 浦牛原 佳奈子さま (鹿児島県伊佐市在住)

「え？あれ、ななつ星じゃない？」	の文字。	星のマーク、そしてSEVENSTARS	いるのが見えた。先頭車両には美しい金色の	入ると、見たことのない色の列車が停まって	エストで人吉駅へ。見慣れた駅から駐車場へ	変え過ぎした夏休み最後の日も、長男のリク	川遊びにプールにお祭り、手を変え品を	も、頻繁に人吉駅へ通った。	道好きの長男と小さな次男を連れて、入園後	転車台、鉄道ミュージアム！最高だね、と鉄	本県人吉市にSLが来るとわかった。SLに	を悩ませていたところ、車で三十分ほどの熊	の長男のパワーをどこで発散させようかと頭	は寒すぎて、まだ幼稚園に通っていない三才	末。一才になったばかりの次男を連れ出すに	市に引越してきたのは、みぞれが降る一月	鹿児島県の北海道と呼ばれる県最北端の伊佐	浦牛原 佳奈子	「ご褒美ななつ星」
------------------	------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------------------	---------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	---------	-----------

20 x 20

私の声で起きた子供たちはまだ訳が分からず
 にいたが、
 一ななつ星だよ。DVDで見たななつ星がい
 るよ。見に行こうし。
 と騒ぐ私につられて、わあ、やったあと機嫌
 よく車から降りてくれた。しかしまずは子供
 の希望でいつもの鉄道ミュージアムへ向かう
 するとミュージアム手前の駐車場にもななつ
 星色の車体。え？それは乗客用と見られる
 大型バスだった。ナンバーは「7」かっこい
 いなあ。こんなバスもいるなんて知らなかつ
 た。早く列車のななつ星もじっくり見たいな
 木のポールブリルヤミニトレインで満足し
 た子供たちの手を引き、ミュージアムを出る
 良かった。ピカピカの列車はホームを変えて
 良かっただけ。今日のはSLではなく、な
 まだ停車している。今日はSLではなく、な
 なつ星を見るために入場券を買った。
 初めて見る豪華観光列車はキラキラして艶
 ヌで、私たちが三人の顔が車体に映る程に磨き
 上げられていた。これは何色というのだらう

綺麗な列車。小さな金色の星が七つデザイン
 されているのも九州の列車らしく誇らしい。
 乗客の方は観光中なのか、列車は静かで、開
 いたドアからは乗務員さんが行き来するのが
 見えた。停車してしばらく時間がたっている
 からなのか見物客もまばらになり、動き回る
 子供たちをあまり気にすることなく、その輝
 く車体を少しの間静かに見ることができた。
 料理人らしき男性が数人、荷物を持ちながら
 乗り込んでいった。おそらく乗客へ提供する
 お料理や食材を運び入れたのだろう。そんな
 光景を見たのも初めてで、なんだか貴重な瞬
 間に出くわした気持ちになった。
 線路を渡るときには、最後尾の車両の大き
 な窓から、広い客室が間近に見えた。すごい
 ねえ、かっこいいねえと子供に話しかけては
 いたが、すっかり興奮していたのは私だった
 本当に美しく、上品な貴婦人のような列車だ
 と思っただけ。
 お腹がすいたと子供たちに急かされて、僕

【優秀賞】金星賞

タイトル「旅立ちの春」

すえつく ちづこ
末次 千津子さま (福岡県うきは市在住)

2013年10月、私たちの保育所の前をななつ星列車が通るようになり、その日から子どもたちとお見送りが始まった。「いってらっしゃーい!」「おかえりなさい!」と列車に向かって、叫びながら手を振り、「お客さんが手を振り返してくれた」「運転手さんが汽笛をならしてくれた」と、子どもたちが喜ぶ姿が続く。毎回欠かさずお見送りをした。雨の日は傘をさして、雪の日はジャンパーを着て、雷が鳴らない限りお見送りを続けた。その姿が話題になり、新聞やニュース、テレビ番組にもとりあげられた。ななつ星のクルーさん、JRの職員の方、ななつ星のお客様とも交流が始まり、ななつ星に手を振る子どもたちを撮影する方が多く保育所を訪ねて来られた。七つ星のお客様からは、お手紙や、絵本、写真など、たくさんのプレゼントを頂いた。風船にアサガオの種をつけて飛ばした時は、風船を拾った方から手紙を頂いた。数々の写真や手紙は、今も保育所の至る所に飾られている。季節ごとにいろんな工夫をしてお見送りをしてきたけれど、見知らぬ人とつながれたことが一番の財産となった。

“呼びかければ、応えてくれる” たくさんの人とつながる事が出来ることを教えてくれた“ななつ星” ほんとうにありがとう!

またいつか帰ってくることを願っている。

うきは市立 山春保育所

・現在 小學校 1年生の子どもら。
まだ文字が書けないので先生と一緒に描いたよ。



懐かしいのよかに、最後の「いってらっしゃーい」 たくさんの出会いとお別れが、ふんわりとくれた「ななつ星」。またあの日まで

2018. 3. 13
懐かしいで最後のめぐり



ななつ星専用ラウンジ「金星」で、タイムカプセルに入れるカードを描きました。この年の年園児が絵を、丁度の方と一緒に保育所の前に埋めました。いふん思ひあが、いげい。お星が大人になった時、さと思ひおきてし。

ななっ星列車を作って、山春でとれるフルーツを乗せました。
この列車と一緒に何度も、おみくりにしたね。



現在小学校3年生の子ども達

2016年10月 ななっ星の3周年では、博多駅で一日駅長になり、お祭りに参加しました。
1人1人ばて見ろななっ星、かこよがたね。



現在4年生

現在5年生



現在小学校5年生の子ども達

2019年10月 ななっ星のおみくりにお揃いでから、今年、3月のお礼、感謝状をいただきました。
うれしおたね!



【優秀賞】 火星賞

タイトル「光る列車」

はるな けいこ

やまの よしこ

とのむら ふみこ

春名 恵子 さま、山野 美子さま、殿村 典子さま (兵庫県西宮市在住)

グループ名「85歳まで」

私たちおばさん3人組は、子育てが一段落をした頃から、年に1回の旅行に出かけます。

1泊2日から始まり、今は2泊3日になりました。

目的地は種々であったのに、いつの間にか九州方面への旅が10年以上続いています。

おいしいものに感激し、風景に深呼吸、遠巡りで肌を磨き、時には震災応援に出かけ、

周りの家族に「また九州へ行くの!」とあきれられています。

旅行日が決定した後、行程を計画している時に「ななつ星」という豪華な列車が走っているのを思い出しました。

関西でもニュースになり、特に阪神間に住んでいる私たちにとっては、車体の色が私鉄H電車に似ていることから親近感がありました。

とはいっても時間と費用がかかる列車の旅、あの世に行くまでには「ななつ星」に乗れないだろうというのが、3人の一致した意見でした。

それなら見に行こうと計画を練り、2014年11月13日、単人駅に前日より停車中の「ななつ星」を目がけ、私たちの旅は始まりました。

私たちが単人駅に到着したのは発車の20分前でした。あわてて入場券を買いホームに入ると、そこは時間の流れが止まったかのような別世界でした。

ホームを歩きながら列車の先頭から写真を撮るのですが、どんな角度で試してもうまく写りません。

車体があまりにもきれいに磨かれ、汚れが一つもないどころか鏡に向かってシャッターを押しているようでした。

発車時刻が過ぎた頃、乗客の紳士が駅に現れ、ゆっくりとあわてることなく列車に乗り込みました。

どうやらその乗客を待っていたようです。スタッフのこやかな対応など、

そんな様子を見ていると人の気持ちも時間もゆっくりとやさしく流れていく、それがこの列車の楽しみ方だと思いました。

14時8分「ななつ星」は出発時刻を少し遅れて単人駅を出発し鹿児島へ向かいました。

遅れた8分間は私たちへのプレゼントだったかもしれません。

見送りが終わって駅を出ると「ななつ星」と同じデザインのバスが停まっており、おもてなしの徹底ぶりに感心しました。

やっぱり一度は乗ってみたい、そう思う5年前の旅でした。



【優秀賞】木星賞

タイトル「ななつ星がくれた出逢い」

さとう りょうへい
佐藤 了平さま（大分県大分市在住）

ななつ星 運行6周年、おめでとうございます！

ななつ星には大分駅で会うことが多いです。

水曜日のお昼時。阿蘇から大分駅にやって来て、機関車を進行方向へ接続し直すシーンやホーム内側にちょっと押し込むシーンが魅力的。大分駅にずいぶん長く停車しますので、ななつ星をじっくり観察できるのは鉄道好きとしては心躍るものがあります。単純に駅を利用している通りがかりの人々がスマホを取り出して写真を撮っている様子を見ても、ななつ星の魅力は無限大だと感じています。

僕にとっては、水曜日よりも木曜日がとても魅力的です。大分駅でななつ星クルーを乗せて、別府駅への送り込みのシーン。ななつ星クルーのななつ星への敬礼は何とも言葉にできない感動をいつも与えてくれます。キリッとした表情で敬礼をした後、柔らかい笑顔でななつ星に乗り込む様子は何度見ても、ななつ星クオリティーの高さを感じると同時に、心温まります。

木曜日のお見送りの場で良くお会いする、1人のおじい様と3歳になろうかというお子様と彼の母親。おじい様とお子様は実弟、家族ではなく、ななつ星のお見送りで何度も会っていて、すっかり仲良し。

僕も何度かお会いすることで、談笑できる仲になりました。僕は数年前、大分県外から引っ越してきましたので、知り合いは非常に限られています。ななつ星を通して出会った、このかけがえのないご縁はとても有難く感じていますし、大切にしていきたいと思えます。おじい様とお子様のお見送りはいつも全力で、この光景を見ることは「気持ちのリフレッシュ」になっています。

これからも、このような光景を楽しみに、ななつ星のお見送りに参加しようと思っています。

ななつ星は九州をぐるりと回って、乗客のみなさんに九州の素晴らしさを知ってもらうだけでなく、ななつ星にかかわる人々の絆をガッチリ結んでくれる不思議な力を持っている列車だと思い、非常に魅力的です。

これからも、元気よく運行し続けてくれることを心より願っております。

（大分県大分市 佐藤 了平）



【優秀賞】ブルームーン賞

タイトル「ななつ星と或る列車とクリスマス」

よしの ひろこ
吉野 博子さま（東京都文京区在住）



— 季節はクリスマス 🎄 私は「或る列車」に乗車していました —

重厚さの中に美しさ輝く「ななつ星in九州☆」。優雅さでは引けも取らない「或る列車♡」。その魅力的な2つの列車が出会う豊後森駅。
私はクリスマスの正装「赤鼻のトナカイ」を被って準備万端です。もう相当早くから準備万端。ななつ星まだかな？ もうすぐかな？ この窓から見えるかな？ と、見られるまでの時間はもうドキドキがとまりませんでした。
そしてついにななつ星が隣(り)に登場!! 「おおー！こんなに近いー!!」その瞬間もななつ星クルーに最高の笑顔で迎えていただきました。かなり「前のめり」で窓にくっついていたので、私の顔は見えていませんが、最高にハッピーな表情で赤鼻が光っていたことは間違いありません。迎える楽しさ、応える嬉しさ。ななつ星は車内だけでなく、その周りもいつもたくさんの笑顔があふれているところがとても素晴らしいです。「ななつ星in九州」に出会えたことで、列車の楽しみ方・過ごし方がたくさん増えました。「トナカイをいとも被ってるんだか？」と、或る列車できかれました。…そんなわけないでしょ…と、ツッコミつつもあながちハズレでもないです。またクリスマスには「正装」して「ななつ星in九州」に会いに行きますね♪ 7周年もそれから先もずっと、魅力的な列車でありますように。 #ななつ星in九州 #水戸岡デザインラブ